

勝納川水系河川整備基本方針

平成 13 年 5 月

北 海 道

勝納川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川利用の現況	1
(4) 流域の自然環境	1
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	2
2. 河川の整備の基本となるべき事項	3
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に 関する事項	3
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	3
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に関する川幅に関する事項	4
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するための 必要な流量に関する事項	4
(参考図)	
勝納川水系流域概要図	5

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

勝納川水系は、その源を北海道小樽市東部の於古おこぼち山南西山麓に源を発し、二股沢川、恩根内川、真栄川などの支流を合わせ、小樽市街地を貫流し、小樽港の第二期運河に注ぐ、流域面積 32.1km²、幹川流路延長 10.5kmの二級河川である。

河川名の由来は、アイヌ語のアッチナイ「豊かな沢」による説、カツチナイ「水源沢」による説などがある。

流域内の土地利用状況は約 45%が山林で、中流部の平地には工場や住宅地が混在し、市街地が河口付近の低平地に集中しているなど、小樽市の社会・経済の基盤をなしている。

(2) 治水の現況

勝納川は、流域に山地が多く、日本海に面した斜面を一気に流下する急流の河川のため、かつては頻繁に氾濫し、流域に多大な被害を与えていた。このため、昭和 37 年の台風 9 号による災害を契機として昭和 37 年～40 年にかけて掘削、護岸による河川改修が行われ、概ね 50 年に 1 回の確率で発生する規模の洪水に対する安全は確保された。

(3) 河川の利用の現況

勝納川は過去の河川改修により河道は直線化され、コンクリート護岸で固められた単調な河川となっているが、小樽市街地を流れる最大の河川で、かつては魚釣りや水遊びが行われるなど、地域住民にとって親しみ深い河川である。

上流の奥沢水源地は小樽八区八景に選ばれ、市民のレクリエーションの場として親しまれ、小樽の代表的な水辺空間となっている。中流部は過去の改修により親水性は乏しいが、住宅や工場が混在する中、右岸には河畔林が残されており、河畔には多くの住民が散策等に訪れている。また、下流部の沿川には酒蔵など歴史的建物や寺社などが点在し、河口部には、新たな観光施設やホテルを核とした大規模な再開発事業が行われ、多くの観光客や市民が訪れるなど、小樽運河からつながる観光エリアとなっている。

また、小樽市民にとってなじみの深いこの河川では、市民による河川清掃などを通じて、より河川に親しめる環境づくりが進められている。

勝納川の水利用としては小樽市の水道用水として利用されているほか、中流部で工業用水に利用されている。

(4) 流域の自然環境

勝納川流域の気候は、一年を通して比較的溫度差が少なく、夏は涼しく冬は温暖な海洋性気候を示している。降水量は全体的に少ないが、日本海側に位置するため降雪量が多い。勝納川流域が位置する小樽市の年平均降水量は約 1,300mm、年平均気温は約 9℃である。

勝納川流域の上流域にかけては、右岸では比較的自來度の高いエゾイタヤシナノキ群落、左岸では落葉針葉樹林と一部トドマツ植林となっている。特に奥沢水源地上流には小樽市の水源を

支える広葉樹林が広がり、オナガアゲハ、ヒメウスバシロチョウなどの昆虫類やキセキレイなどの鳥類が生息するなど豊かな自然環境となっている。水際には、カヤツリグサ科の植物が多く見られ、水面に陰をつくり、魚類などが生息しやすい空間を創出している。

中流から下流にかけては過去の改修によって直線化され、河岸はコンクリート護岸で固められており、落差工が多数設置されているため、河道は平瀬化しているところが多いが、経年変化により所々に州が形成され、水際にオオイタドリ、クサヨシなども繁茂している状況も見られる。また、河畔の樹林地を中心にイソシギや小樽市の鳥に指定されているアオバトの生息も確認されている。

勝納川は急勾配で運河に注ぐため、河床は比較的大きな粒径の礫で形成されており、スナヤツメなどの生息が確認されているが、多数の落差工が回遊魚類等の移動の妨げとなっている。

(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況並びに河川環境を考慮するとともに、既存の利水施設等の機能の維持に十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害発生の防止又は軽減に関しては、勝納川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川との計画規模の整合を図りつつ、概ね 50 年に 1 回の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させることとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、河川の利用状況を踏まえ、水量・水質の把握を行うとともに、利水者や関係機関との調整を行い、河川が適正に利用されるよう努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、動植物の生息・生育環境や水質及び景観等に配慮し、良好な河川環境の保全と整備に努めるものとする。

さらに、勝納川は小樽市を流れる貴重な水辺空間であり、中流部から上流部にかけて散策空間として利用され、上流部の奥沢水源地は市民のレクリエーションの場として親しまれているほか、地元のイベント会場として利用されていることから、景観や親水性に配慮した整備を行い、地域住民や観光客などの交流の場、また人と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

また、河道の連続性を確保し、魚類の良好な生息環境の創出を図るものとする。

河川の維持管理については、勝納川が小樽市を流れる貴重な水辺空間であり、散策空間やレクリエーションの場、観光地として多くの人々が訪れる河川であることから、災害の発生の防止とともに、特に河川の利用や河川環境の保全に配慮し、地域住民や関係機関と連携を図りながら実施に努めるものとする。

なお、以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

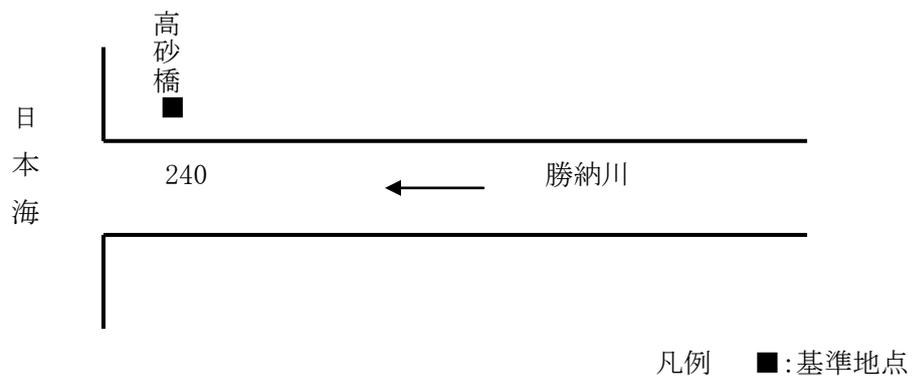
基本高水のピーク流量は、概ね 50 年に 1 回の確率で発生する規模の洪水を考慮して、高砂橋基準地点において $240\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水ピーク流量等一覧表 単位： m^3/s

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
勝納川	高砂橋	240	—	240

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

勝納川における計画高水流量は、高砂橋地点において $240\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図(単位： m^3/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅(m)
勝納川	高砂橋	0.8	+14.99	18

(注) T.P.:東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量に関する事項

勝納川では水道用水や工業用水として約 0.2m³/s の水利用があるが、渇水被害が生じた事例はない。

勝納川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の河川の状況の把握を行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、調査検討を行ったうえで定めるものとする。

勝納川水系流域概要図



凡 例	
--- · ---	流域界
■	基準地点

